

# 市長記者会見報告事項概要

令和8年4月24日(金) 午前11時～

## 1. ゴールデンウィークの観光イベントについて

- 今や全国区のイベントとなった、小野の「こいながし」、本橋の「こいわたし」が、今年も5月の連休に開催される。
- 来週29日には、市内各所でイベントが行われる。
- アスピラートでは、恒例となった小・中・高校生の「春の吹奏楽幸思演」が開催される。市制施行90周年を記念し、陸上自衛隊第13音楽隊とNTT西日本中国吹奏楽クラブが同時に出演される。
- 4月2日にアスピラートで開催された日台交流スペシャルガラコンサートにご出演いただいた、台湾のクラリネット奏者、楊元碩（ヤン エンソ）さんも、「春の吹奏楽幸思演」に出演される。今回は、楊さんが作曲された「東台湾臨海道路」が初めてお披露目される。
- なお、曲の元となった絵画「東台湾臨海道路」の実物が、山口県立美術館で5月24日まで特別公開されている。
- 29日は、昨年制定された「もちまきの日」でもある。今年は4,290個のもちがまかれる予定。
- 併せて、防府商工会議所で盛り上げていただいている、裸坊「あなたで1万人」の巨大装飾が防府駅構内でお披露目される。
- 秋の裸坊祭に向け、防府のまちの一体感を醸成していきたい。
- 今年のゴールデンウィークも、歴史や自然、音楽といった多彩なイベントで防府を盛り上げたい。

## **2. 「第45回防府市緑花祭」の開催について**

- 明日明後日は緑花祭が開催される。
- 市制施行90周年を記念し、例年以上に趣向を凝らした内容となっている。
- 恒例の「もちまき」では、昨年「ほうふグリーンアワード」を受賞された、松崎小2年の高木美波さん、華城シニアラッキークラブの皆さん、久間昭夫さんや、「CO2削減ほうふまちづくり優良事業所」として表彰させていただくブリヂストン防府工場の皆様に「もち」を投げていただく。
- 花と緑いっぱいの会場で、多くの皆さまに楽しんでいただきたい。

## **3. 歴史のまち防府読本「すごいぞ！防府の歴史探検 数字のヒミツを追え！」の完成について**

- こどもたちに防府の歴史を学び愛着を持って欲しい、また、観光客の皆さまにも楽しんでいただきたいとの思いで作成した、「すごいぞ！防府の歴史探検」が完成した。
- 防府天満宮、周防国分寺、毛利氏庭園、阿弥陀寺の4つの数字の謎を紐解きながら、こどもたちや学校の先生にしっかり学んでいただきたい。
- 防府を訪れた観光客の皆さまにしっかりと知っていただけるよう、様々な施設に設置し、インターネットでも公開する。
- 観光客の皆さまには、冊子やスマートフォンを手に、楽しみながら、歴史のまち防府を歩いていただきたい。

#### **4. 「菅原道真公歴史探訪クルーズ」の開催について**

- 防府の4つの数字のうち、「1」は日本の最初の天神さま、防府天満宮である。
- 来年3月に1125年式年大祭を迎える防府天満宮にちなみ、市制施行90周年を記念して「菅原道真公歴史探訪クルーズ」を催行する。
- 菅原道真公がたどった足跡を知ってもらうため、野島海運の「レインボーのしま」を活用し、7月20日、21日の2日間、市内の小中学生を対象にクルーズを催行する。
- 5月13日から6月11日まで募集し、40名の方に参加していただく。
- 参加する子どもたちにはしっかりと学んでいただきたいと思っている。

#### **5. 中東情勢・物価高騰対策に係る中小企業への緊急支援について**

- 中東情勢が不透明な中で、物価の高騰、シンナーやナフサの不足など、様々な問題が起こっている。
- これまで、防府商工会議所と何度も協議を重ね、私自身も会議所と複数回、直接お話をさせていただいた。
- 企業の皆さまは、情勢が不透明な中、影響がどの程度あるのか、いつまで続くのか、という不安感を持っておられる。
- 様々なお話を伺い、市としてできることは運転資金の確保であると判断し、緊急支援を決めた。

- 当初予算で、融資限度額1,500万円、最大据置期間2年、利率5年以内1.4%、5年超1.5%、保証料全額補給の「関税・物価高騰対策緊急支援資金」を用意した。
- 今回、最大据置期間を3年に延長し、その間の利息を市で全額負担することとした。
- 最大3年間は負担ゼロとなる。
- 金利が上昇傾向にある中、企業の皆さまに寄り添った特別な対策と思っている。
- 情勢が不透明な現段階での緊急支援が、中小企業の皆さまへの「困ったときは、市がしっかり支援します。」というメッセージになればと考えている。
- 今後、国や県の施策も打ち出されると思うが、それまでの間、市がしっかりと手助けをしたい。
- 5月1日から支援を開始するため、市議会のご理解もいただき、必要な予算を専決処分した。
- 今後も情勢を注視しながら、適宜、的確に支援していく。